

泉式全音速記

全音速記術發者
乙部泉三郎著



泉式全音速記目次

1. 全音速記	2	22. ジュウ・ジュン・ジュ	14
2. 練習の要具	2	23. カイ・コイ・スイ・ツイ等	15
3. 速記の練習	2	24. ナニ・ココ・カコ・ツツ	15
A. 単字よりも単語を	2	25. 小田の省略法	15
B. 反読と反訳	3	26. ル点簡記法	16
C. 毎日の練習	3	27. キ字簡記法	16
4. 速記と表音	3	28. ドンナ・コンナ・ソナ	16
5. カ行	4	29. コトの記法	17
6. が行	4	30. スルとシタ	17
7. サ行・ザ行	4	31. ナラとネバ	17
8. タ行	5	32. 数字のかきかた	17
9. タ行	6	33. 助詞の類	18
10. ナ行	6	34. 助動詞	19
11. 促音の書き方	7	35. ナオアル法	19
12. 鼻音	7	36. ア・ウ・イ・シのであります	21
13. 疊字	7	37. 受身と敬語	21
14. ア行・ワ	8	38. テイル法	22
15. ハ行	9	39. 略字	22
16. ハ行	9	40. 大字バ法	23
17. バ行・ヤ行	10	41. 略字の活用	23
18. マ行	10	42. 記号	25
19. ラ行	11	43. 文例	26
20. 長音字のある単語例	12		
21. タイ・グアイ	14		

1. 全音速記

速記術は人の言葉をそのままに快速に書き取る技術であります。この全音速記は式の名で言えば泉式といいます。泉の流れるが如く、すらすらと書け、すらすらと読めることを理想としている速記であります。

泉式は1940年に発表されました。基本文字に採用した画線は、ひらがなを分解し、その構成している線を用い、表音は漢字とローマ字とを参考といたしました。

全音速記の開発目標は

1. 書きやすい速記
2. 読みやすい速記
3. 美しい速記

この三つでありました。

書きやすい速記のためには、誰でも自然に書ける線を用いなければなりません。この速記の文字は、日本字を書くような気持ちで書ける文字であります。だから、速記のための特別の運筆練習をする必要はないのであります。鉛筆の持ちかたも、普通の日本字を書くのと、全く同じで、速記を書くための特別の持ちかたをする必要はありません。鉛筆は固く持たないで、普通に持って、速記の練習をしてください。

速記文字を読みやすくするためには、速記は書いた通りに読めばよい速記であることでもあります。この速記は清音字・濁音字・長音字を活用するので、反読の練習は書いてある通りに正確に読めばよいのであります。

速記が上達してくると、自然に美しい字並の速記が書けるようになります。速記書道も全音速記の目標の一つであります。美しい速記、

芸術的な書風の速記は、日常生活に速記を取り入れるためには、だれにも必要なのであります。この全音速記は、このような性格を持っております。

この全音速記は、発表以来ここに30年、時勢の進展と共に改良を重ね、見ちがえるほどの発達をとげました。泉式を習得して専門速記者となった方々、自家用として、速記を活用している人々もたくさんおります。小中学生でさえ、この速記を習っております。

2. 練習の要具 …… 紙と鉛筆

紙は白紙なら何でも間に合います。練習用には、普通のザラ紙を20枚ほど二つ折りにして、その折り目を解じて使います。はじめは下部だけを使い、使い終わったら下部を上部にし、上部を下部にして使うのが普通であります。



鉛筆は3B、4B、5Bなどのような、芯のやわらかなものを用います。芯は少し長めにけずり、芯先は鋭くしないで使えます。速記の字は細くても太くても同じですから、太い芯のまま使えば、長時間の役にたちます。練習の初めごろは、鉛筆に力ははいりすぎるようですから、なるべく軽く使うように習ってください。

3. 速記の練習

A. 単字よりも単語を

速記文字は一字一字を単独に覚えるよりも、単語に綴ったものを覚えるほうが能率が上

がるようであります。いろいろの単語の書き方を覚えれば、単字も同時に覚えらるることになります。

速記の字は書きかたの筆順に気をつけてください。一本の / 線でも、下から上へ書きあげる ↘ 線と、上から下方へかきおろす ↙ 線とがあつて、この二つの線を区別しております。この二つの線は似ていますが、実はちがう線なのであります。上り線と下り線で角度がちがうのであります。字を書きはじめるところを起筆点といいます。本書では、この起筆点を示すために、矢印 ↘ を用いてありますから、よくご注意ください。

テープコーダーを速記練習に利用するのも上達の方法であります。習い初めの人単語練習をするときには、同じ単語を三回連続して吹きこみ、その聞き書きは三回の声に一回書ければよいとします。一例をあげれば、「かし・がじ・きし・きじ……」の単語を吹きこむとき、「かし・かし・かし・がじ・がじ・がじ・きし・きし・きし・きじ・きじ・きじ……」と三回ずつ吹きこみます。練習の初め頃は思うように書けないので、三回聞く間に一回書ければよく、次第にらくに書けるようになって、習熟してくると、三回書いて三回正確にかけられるようになります。このようにして上達してくれば、二回ずつ吹きこむとか、一回吹きこんで練習することもできるようになります。

速記の練習中、特に注意しなくてはならないことは、字の大小や、字の長短、線の方向や形、字尾を留める字と、字尾を流す字との区別、また、円の大小やその形状などを正確に書くように練習することです。正確な文字の練習は最後まで必要であります。

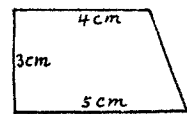
B. 反読と反訳(反文)

速記を読むことを反読といいます。読むだけでなく、日本字に書き直すことを反訳または反文といっております。反読は初学の人はいやべりますが、速記上達のためには非常に必要でありますから、書いた速記は必ず反読してください。速記の検定試験を受ける人にとっては、反訳は特に大切であります。

C. 毎日の練習

毎日練習しないと上達がおくれます。一日に長時間練習して、二三日休むような練習のしかたよりも、短時間であってもよいかから、毎日休むことなく練習を続けることが大事であります。

速記の習いはじめ、単語を練習するころは、右図のようなカード



を作つて、表に速記を、裏には日本字を書いて練習するとよいと思います。

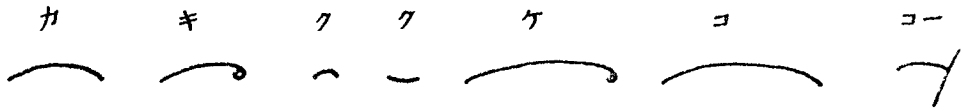
なお、速記練習時間記録表を作つて、毎日練習した時間を記録しておくことも大切です。練習時間合計100時間を越えるころには、速記もよほど上達しておりますし、速記に対する興味も津々となきでていることと思ひます。

4. 速記と表音




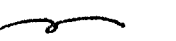








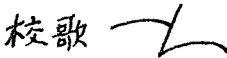

この速記では何でも発音通りに書くことを本則とします。たとえば(母は東京へ行く)は(母わ東京え行く)と書きます。また、放火・防火・邦画・忘我の字は速記の字形がみなちがつておりますから、その通りに書きますし、その通りに読むのであります。

5. カ行

カ キ ク ク ケ コ コー




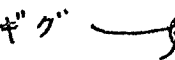



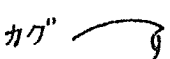




この速記の文字の大きさは、大体、三つに分けられる。大字・中字・小字の三種である。普通には大字の大きさは約5ミリ、中字は約12ミリ、小字は約4ミリと見当をつけておけばよい。カ行では、カは中字、コは大字。カに小田をつけるとキになり、コに小田をつけるとケとなる。クは二字あって、どれを使ってもよい。クは小字。

(単語例) カキ  キク  カク  キカ 
 クキ  カケ  キケ  キコ 
 クケ  コク  コケ 
 火口  校歌  広告 

6. ガ行

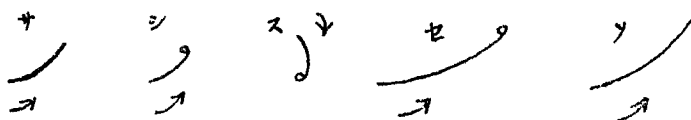
ガ ギ グ ゲー ゴー



(単語例) ガギ  ギグ  合議 
 豪華  カガ  カグ  グキ 
 カゲ  ガク  ゲキ 

7. サ行・ザ行

サ シ ス ↓ セ ソ



サ^ハ ↓ ジ ↓ ズ ↓ ズ ↓ ズ セ ↓ ツ ↓

サ行・ガ行は必ず矢印の方向にかかねばならぬ。

ズは三字ある。どれも中央の線からかかねばならぬ。

(単語例) サシ サザ サス サセ

シジ ジシ シズカ シカ

シズカ スズカ スス カサガ

シカ ジガ シガ ジカ

8. 夕行

夕 チ ツ テ テ ↓ ト ト タ

テは小字で二つある。トは大字と小字と二つある。ツの小田は右側につけても左側につけてもよい。夕^ナは半書字といってタカ^ナタケ^ナの如く、次の字が続くときは^ナの横線を省略してもよい。つまり半分だけ書いてもわかる字である。半書字はこのほかにハ・ヒ・ホ等がある。

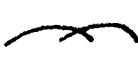

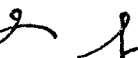

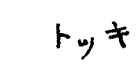
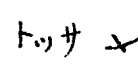


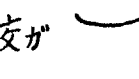
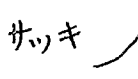



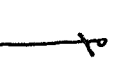

(単語例) タツ ット ツダ タテ

テト テキ テガ キテ

ツジ タタ タシ ゴテ


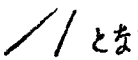
11. 促音の書き方







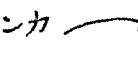
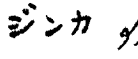



そく音とは カット、シッカ、カッタ 等の如く、つまる音のことである。この速記では 次の単語例の如く、文字を交叉して表わすが、字と字との間に | 線をいれて表わす。

(単語例) カツカ  カット  シッカ 
 カッタ  トッキ  トッサ  トッタ 
 ガツカ  学校ガ  サッキ  ツッタ 
 鳴ッタ  知ッテ  ネット  ハッタ 



12. 鼻音

鼻音とは カン、キン、サン、シン、トン 等の語に出てくる ン の音のことである。この速記では、字尾をとめないで、字尾の力をぬいて表わす。字尾で鉛筆をとめないで流すのである。

一例を示せば、タダは  となるが、タンダは  となる。

シガ  シンガ  カカ  カンカ 
  キンカ 
 ジンカ  デカ  デンカ  テンカ 


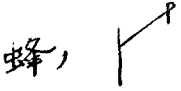

















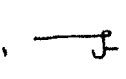
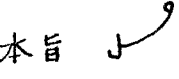

13. 畳字

チチ、ネネ、カタカタ、サクサク、カチカチ 等のように、同じ音をくりがえす時には  または  を用いる。

15. ハ行


ハ ヒ フ ヘ ホ ホー ホン


ハ・ヒ・ヘ・ホ・ホー・ホンは半書字である。字の半分がいて間に合う字である。
 ハ行の字は必ず、たての線の上部から起筆する。横線はハ・ホは中央より上部に、ヒ・ヘは中央より下部にある。






(単語例) 旗が  蜂  ハダカ  ハキ 
 フキ  ハク  フク  可否  比較 
 ハト  ヒト  ホカ  ホド  ホー 
 旗  ホーク  放火  ホン  ホンヲ 
 日本  本旨  本家ノ家室 









(註) 補助字としてヒ  ハ  を用いることがある。たとえば、
 皮下  ハキ  ハタ 

16. ハ°行



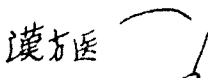
パ° ピ° プ° ペ° ポ° ポー° ポン°


ハ°行はハ行のように半書字である。単語例を見て理解してください。



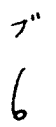







(単語例) パカ  ホカ  パナ  一匹  一方 






カッパ  カッパ^カ  カッポ^カ  ピアノ 
 ペキン  ペンギン  ナッパヲ  達筆 









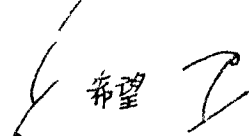
カッパ・カッポ・ナッパ等の如く促音のある単語はカパ・カポ・ナパ等と書いてもよい。




(単語例) スポーツが  憲法が  漢方医 

17. バ行・ヤ行








バ  ビ  ブ  ベ  ボ  ボー  ヤ  ュ  ヨ  ヨー 

(単語例) バク  ビク  ブシ  カビ  ガ 













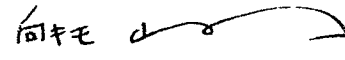
ノベテ  ヤケデ  雪  ヨキ 
 ボヤ  ヤボ  坊ヤ  防備  希望 

用意  (注) ヨは小字として、ヨイ  のヨク  のようにも用いることもある。












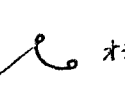










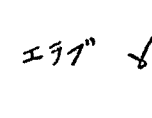
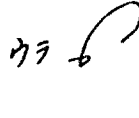
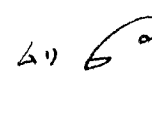
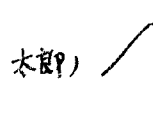
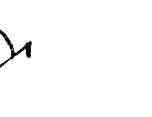


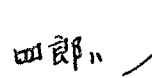



18. マ行




マ  ミ  ム  ム  ヨ  モ  (助詞)モ 





















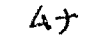
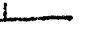
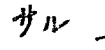
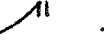
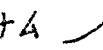
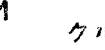
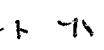
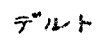
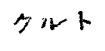
〃は右より起筆、○は左端または右端より起筆。――は字尾をとめない。

マキデ  ミキデ  カキヲ  カミヲ 
 虫デ  ムカデ  ムチデ  ムス   
 君モ  雲モ  向キモ 

19. ラ行

ラ リ リ ル ル レ ロ ロー
       
 (単語例) ナラ  キリ  チリ    
 サラリ  トロ  タク     
 村田  エラブ  ウラ  ムリ   
 次郎ガ  四郎カ  四郎    

老臣  朗々ト  (註) ル点 ・ は単語の頭には使わ
 ない。  は左の線から起筆する。右線から起筆するとムとなる。

カル    ルカ  ルイ     
 テル          
 ルナ    サル     
 デルト 
 クルト 

(註) レ は 間消字 にもなる。間消字とは、字と字との間に、その姿を消してしまふ字のことである。例としては カレテ → クレテ、クレデ、ナレル → 等、次の単語例を見よ。

(単語例) ダレ↳ ダレダ↳ ジレル↳ ダレカ↳
 歴史↳ ダレガ↳ カラハ↳ カレダ↳
 キレジ↳ テレビ↳ カレル↳ キレタ↳
 サレル↳ サレテ↳ ソルト↳ コルト↳
 ラレテ↳ サレ↳ イ↳ ラレ↳ サレタ↳
 ラレタ↳ コレガ↳ ヲラハ↳ ラレル↳

(註) ㇿ は → と ㇿ の合字。零度↳ 令名↳
 例規↳ 例刻↳

20. 長音字のある単語例

長音字のない場合には、字のそばに点を打って長音とする。

(単語例) 高筆↳ 高層↳
 高農↳ 構造↳ 公報↳
 工房↳ 紅毛↳ 高度↳ 小路↳
 好打↳ 公私↳ 公用↳ 高樓↳

豪華 \searrow 合同 \rightarrow 合法的 \searrow 草稿 \rightarrow

想像 \circ 相当 \searrow 齊藤 \searrow 双方 \rightarrow 僧坊 \rightarrow

早老 \rightarrow 増加 \rightarrow 私蔵 \rightarrow 増額 \rightarrow

高校 \rightarrow ゴーゴト \searrow 早々 \searrow トート \rightarrow

堂々 \searrow ノー \rightarrow 方法 \searrow ボー \rightarrow

モー \searrow 洋々 \searrow 朗々 \searrow 登枝 \rightarrow トー

逃亡 \searrow 東方 \searrow ホー \searrow 望楼 \searrow 房総 \circ

暴動 \searrow 冒頭 \searrow 養老 \searrow ササ \rightarrow カーキ \rightarrow

便宜字として スター \searrow タービン \searrow ダース \searrow ダーク \searrow
オト \rightarrow このほか次のような長音字の使い方がある。

数詞 \searrow 数学 \searrow ズー \rightarrow ズー \rightarrow 通知 \searrow

通行 \searrow サンデー \rightarrow 新浮 \rightarrow 安寧 \rightarrow 風致 \searrow

ブーム \searrow 急ナ \searrow 教師 \searrow 牛乳 \rightarrow 崇教 \searrow 龍宮 \rightarrow

商業 \searrow 農業 \rightarrow 業ヤ \rightarrow 横線 \rightarrow 助線 \rightarrow

十字 一 重大 一 糸約 2 注意 ち 長期 2 評論 ①

女房ラ 一 カンピョー 病気 病院 明日 ②

流行 良好 料理 (註) 長音字ではないが次のような促音字もある。

密着 接着 一着 積極 作曲

失脚 ナツチャ 見エ ナクツチャ

21. タイ・ダイ 点のダイは語の初めだけに使う

退学 〇 大学 一 対象 j 大小 j
(註) 次例のように小田のフイ字に限りダイの特別のかきかたがある。

素ダイ ① 歯キダイ ② 受テダイ ③ 信ジダイ ④
読ミ ⑤ トメ ⑥ 借リ ⑦ タバ ⑧ 学習 ⑨
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
事態 ⑩ 状態 ⑪ 世帯 ⑫

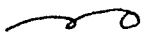



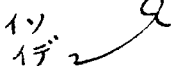

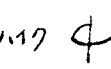

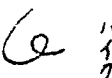

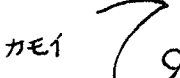
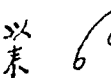










22. ジュウ・ジュン・ジュ ジュは全書字。他は半書字。

(単語例) 樹脂 一 受験 一 樹木 ①



























従業 一 十三 一 準備 一 巡回 ②

熟考 一 十期 一 (註) 技術は ③ 又は ④ とかく。














23. **カイ・コイ・スイ・ツイ等**

(単語例) キカ  コイ  ガイカ 
 サイゴ  イツ  カイ  バク  カン 
 マク  バイ  カイ  米  コイ 
 水害  水泳  ツイ  追突  随行  スキー 
 定価  停止  サンデー  等々

24. **ナニ・ココ・カコ・ツツ等** よく使われる字である。

(単語例) ナニ  ナシ  タチ  ナカ 
 ナシキ  君ナシ  ココ  ココ 
 ココ  カコ  過去  過去 
 カツ  ガツ  ハツカ  フツカ  必要 
 シヤツ  シュツ  カバツ  クバツ  見ツツ 
 キエント  ニホン  ニッポン  永遠 

25. **小円の省略法**

シン  ジン  ニン  ビン  ブン  のように小円のつく字で、ンを伴う字は、次の例のように小円を省くことができる。
 (例) 心外  神事  金貨  家 
 郵便  赤  人気が  帰任 

自) $\left\{ \begin{array}{l} \text{ニシク} \longrightarrow \text{念ニハ} \longrightarrow \text{銀貨} \end{array} \right.$
 銀行ハ \longrightarrow

26. ル点簡記法

知ル・切ル等の如く小円のある字にル音の続くものは、小円を省き、字尾の下部に点を打つてもよい。

(使用例) 知ル \curvearrowright 散ル \curvearrowright 切ル \curvearrowright $\begin{matrix} \text{チ} \\ \text{ギル} \end{matrix}$
 池ル \curvearrowright ニゲル \longrightarrow ミル \curvearrowright トル \curvearrowright ヤル \curvearrowright
 シルト \curvearrowright ミルト \curvearrowright (注) ビル $\begin{matrix} \text{R} \\ \text{R} \end{matrix}$ ベル $\begin{matrix} \text{R} \\ \text{R} \end{matrix}$ はこのほうがよい。

27. キ字簡記法

キタ \curvearrowright キミ \curvearrowright キネ \longrightarrow のキの字の小円の一部だけを残したものとみてもよい。しかし、強いて使用に及ばず。

(使用例) キタ \curvearrowright キミ \curvearrowright キネ \longrightarrow キシ \curvearrowright
 キバ \curvearrowright キテ \longrightarrow キジ \curvearrowright キツク \curvearrowright
 これを逆に書いて、逆によむこともできる。

(例) タキ \curvearrowright ミキ \curvearrowright ネキ \longrightarrow シキ \curvearrowright $\begin{matrix} \text{ハ} \\ \text{キ} \end{matrix}$
 ナキ \longrightarrow ジキ \curvearrowright (註) 促音は次のようにかくこともできる。
 タッキ \curvearrowright マッキ \curvearrowright シッキ \curvearrowright 速記 \curvearrowright 兼器 \curvearrowright

28. ドンナ・コンナ・ソナ ナの筆順は \curvearrowright

ドンナ \curvearrowright コンナ \curvearrowright ソナ \curvearrowright と小字にかくこともできる。

29. **コトの記法**

見タコハ - 来タコモ ミゴトナ マコト

仕事ヲ のように、字の下部をコトと読む。コトの略字は ムム
 がある。コトバ コト = ム までとかく。また、
 段落標 X を字の下部に記せばコトと読む。次の例を見よ

(例) 見タコト X 本ヲ讀ムコト X 来ルコト X

30. **スルとシタ** スルの大字はスレバ

(単語例) 帰宅スル) キタク) 愛スル
 スレバ) スルトイウ)
 スルトイウ) 移転スル)
 イデアリマス) テンシル)
 トイウイデアリマス

字の下部にタをかいてシタと読む 帰宅シタ ドウシタ

31. **ナラとネバ** ナラ → ネバ

(例) 池ナラ 今ナラ 今ナラバ
 朝ナラバ ウタネバ 見セネバ
 ネバナラヌ ネバ ナラナイ ネバ ナリマセン ネバ ナルマイ
 ネバ ナリマスマイ ナラヌ ナラナイ ナリマセン
 コマラナイ シラナイ ワカラナイ

32. **数字のかきかた**

イチ・ヒト = フタ サン シ ヨン ゴ ロク シチ・ナナ

 ハチ ク・キユウ ジュウ ヒヤク セン マン オク 非

二十 フタト 三十 シト ヨント 五十 六十 七十 八十
 九十 二百 三百 四百 五百 六百 七百 八百 九百
 千 一千 一千 二千 フタ千 三千 四千 五千 六千
 七千 八千 九千 一万 二万 三万 四万 五万
 六万 七万 八万 九万 十万 二十万 一オク 二億

0.002 0.32 三分の二 昭和四十五年 昭和六十年
 午前三時 午後二時 三月六日 紀元前三百年

1970年 メートル キロメートル ミートル グラム
 キロ ミクロ 三十三回 二十三夜

33. 助詞の類

速記の助詞は基本文字で書けばよいのであるが、下記のは、特に、助詞の類として、一括して並べておく。

ニ モ ニモ ニデモ
 ト ト デモ シテ シ カラ

ヨリ ノ ヨレバ ノ デス 〆 ノデ J ノデス d ノデハナ

(使用例) 山 = 〰 山ト 〰 〰 〰
 馬 = モ 〰 馬 = デモ 〰 川デモ 〰
 雨デモ 〰 山カラ 〰 見タカラ 〰 反対シテ 〰
 コウシテ 〰 ハシヨリ 〰 川ヨリ 〰 花デス 〰 来タノデ 〰
 見タノデス 〰 来タノデハ 〰

34. **助動詞**

マス マセン マスト マシテ マシヨウ マスマイ マシタ マスレバ マシタデ マシタデ マスル マスルト
 | / \ \ | | | | | | | |

マスレカラ マスカラ マセヌ マスケレドモ マシタケレドモ マスレバ 〰 デアリマス マセンデシタ
 | | | | | | | | | |

マセンデシテ マセンデシヨウ マセンデシタガ デシヨウ マスカ
 | | | | | | | | | |

(使用例) 見マス 〰 見マセン 〰 見マスト 〰 見マシテ 〰 見マシヨウ 〰
 見マスマイ 〰 見マスレ 〰 見マセンデシタ 〰 見タデシヨウ 〰

35. **ナオアル法**

石に^〇なる、虫が^〇おる、花で^〇ある の句の中の なる・おる・ある の三つのかきか
 がたを ナオアル法 と称する。ナオアル は 多くの場合、ガ・ニ・ト・モ・

ハ・テ・シテ・デ・ノデ 等の助詞に接続して用いられる。

助詞の中央上が ナル、中央下が オル、右肩が アル の位置となる。次の使用例によって理解してもらいたい。

ナル
アル
助詞
オル

(使用例) 実ガナルト ミニナルト ミモアルト ミデアルト ミトナルト ミトナルト

ミハアルト ウマガオルト 虫モオルト 実ガアリ ミニナリ ミモアリ

ミガナリマス ミニナリマス ミモアリマス 山ガアリマス ウマガオリマス 虫ガオリマス

石ガアリマセン 石ニナリマセン 石モアリマセン 石デアリマスト 石ニナリマスト 石モアリマスト

石ガアル 石ガアルノデアリマス 牛ガオル 牛ガオルノデアリマス 石ニナル 石ニナルノデアリマス

石ガアッタ 石ガアッタノデアリマス 牛ガオッタ 牛ガオッタノデアリマス 石ニナッタ 石ニナッタノデアリマス

石ガアルノデアル 石ガアルノデアアッタ 石ガアッタノデアアル 石ガアルノデアアッタノデアリマス 石ニナツテ 石ガアツテ

牛ガオツテ 牛ガオツテ (註)オル 石ニハナルマイ 石デハナルマイ

石デアリマスレバ 石モアリマスレバ 石ニナリマスレバ 石デアレバ 石モアレバ 石ガアレバ

石ニナロウ ウチニオロウ ミガアルノデア ミガアルカタ ミガアルカ ミモアルシ

石ニナラス 石ニナラネバ 石デアラネバ 石デアロウ 石デシヨウ 石デアル
 デシヨウ

36. ア・ウ・タイ・シイ のであります

来た *kita* 見た *mita* 食う *kuu* 来る *kurū* 見える *mieru*. タイ・シイ
 等が続く助動詞は「⁰ノデ⁰ア⁰リマス・⁰ノデ⁰ア⁰リマシテ……」と⁰ノデ⁰が続く。

(使用例) 来た⁰ノデ⁰ ア⁰リマス ミタ⁰ノデ⁰ ア⁰リマス ミタ⁰ノデ⁰ ア⁰リマシテ

朝⁰ナ⁰ノデ⁰ ア⁰リマス 幸⁰ナ⁰ノデ⁰ ア⁰リマス クウ⁰ノデ⁰ ア⁰リマス クル⁰ノデ⁰ ア⁰リマス ツク⁰ノデ⁰ ア⁰リマス

オス⁰ノデ⁰ ア⁰リマス タツ⁰ノデ⁰ ア⁰リマス ヤム⁰ノデ⁰ ア⁰リマス ミル⁰ノデ⁰ ア⁰リマス 知⁰ル⁰ノデ⁰ ア⁰リマス

知⁰ル⁰ノデ⁰ アル 知⁰ル⁰ノデ⁰ ア⁰リ 知⁰ル⁰ノデ⁰ ア⁰ツタ 押⁰ス⁰ノデ⁰ アル オス⁰ノデ⁰ ア⁰ツタ

キ⁰タ⁰ノデ⁰ アル キ⁰タ⁰ノデ⁰ アル ¹デ⁰ア⁰リマス キ⁰タ⁰ノデ⁰ ア⁰ツタ キ⁰タ⁰ノデ⁰ ア⁰ツタ ¹デ⁰ア⁰リマス

ミ⁰エ⁰ル ¹デ⁰アル ミ⁰エ⁰ル¹ノデ⁰ ア⁰リマス ミ⁰エ⁰ル ¹デ⁰ア⁰ツタ ガ⁰アル¹ノデ⁰ ア⁰リマス

ガ⁰ア⁰ツタ¹ノデ⁰ ア⁰リマス 見⁰タイ¹ノデ⁰ ア⁰リマス 南⁰キ⁰タイ ¹デ⁰ア⁰リマス メ⁰デ⁰タイ ¹デ⁰ア⁰リマス

信⁰ジ⁰タイ ¹デ⁰ア⁰リマス 美⁰シイ ¹デ⁰ア⁰リマス ホ⁰シイ¹ノデ⁰ ア⁰リマス

37. 受身と敬語 ラレ・サレ・セラレ

(使用例) コ⁰ラ⁰レ メ⁰サ⁰レ メ⁰サ⁰レ¹ル メ⁰サ⁰レ¹テ

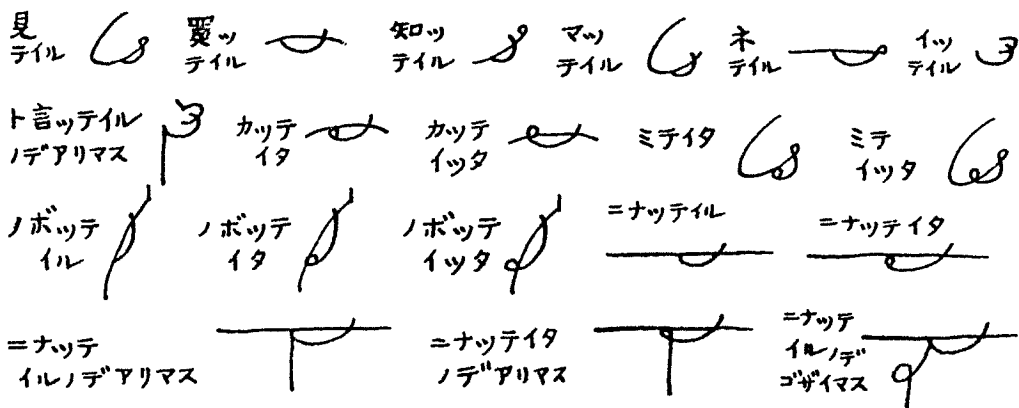
召⁰サ⁰レ¹タ メ⁰サ⁰レ¹マ⁰ス メ⁰サ⁰レ¹テ⁰オ⁰リマス キ⁰ラ⁰レ ミ⁰ラ⁰レ

ミ⁰ラ⁰レ¹テ ミ⁰ラ⁰レ¹ル ミ⁰ラ⁰レ¹ル¹ノデ⁰ ア⁰リマス ミ⁰ラ⁰レ¹マ⁰ス ミ⁰ラ⁰レ¹ヌ

送⁰ラ⁰レ¹ヌ オ⁰ク⁰ラ⁰レ¹ル ミ⁰セ⁰ラ⁰レ¹ル ミ⁰セ⁰ラ⁰レ¹マ⁰ス

感⁰ジ⁰ラ⁰レ 信⁰ゼ⁰ラ⁰レ¹ル ミ⁰セ⁰ラ⁰レ¹ル ¹デ⁰ア⁰リマス ミ⁰セ⁰ラ⁰レ¹ヌ

38. テイル法 テイル・テイタ・テイッタ



39. 略字 略字はなるべく少ないほうがよい。

略字を多く使えば、快速に楷書は速いであるが、多すぎると、これを覚えるために非常な努力をしなければならぬし、覚えただけで即座に活用できないようでは、かえって速力をにぶらせるから、用心しなければならぬ。ここに示した略字でも初学の人には多すぎるようであるから、初めのうちは、この略字の中から覚えやすいものだけを拾いだして使えばよいと思う。

アル	㇀	ココ	㇁トイウ	✓	ミナサン	㇂
イル	㇃	ゴザイ	㇄	トコロ	✗	ミナサマ	㇂
オル	㇅	コト	㇆ ㇇	トコロ	✗	申上げ	㇈
思ウ	㇉	シカシ	㇊	ナイ	㇋	モノ	㇌
カコ	㇍	...テシマイ	㇎ナク	✗ヨウニ	㇏
必ズ	㇐	スナワチ	㇑ナク	✗レバ	㇒
必ズシテ	㇓	スベテ	㇔バカリ	✗	私	㇕
考エ	㇖ダケ	㇗	人ガ	㇘	私たち	㇙
ケレドモ	㇚	デキ	㇛	人々が	✓	私ども	㇜

(註) ㇑ は文字の代用記号である

40. **大字バ法** 略字を大きく書いて、語尾を……バとよませる。

(例) トイウ ✓ トイバ ✓ 思ウ ↶ 思エバ ↶ 考エ ~
 考エバ ~~~~~ デキ ✓ デキレバ ✓ =ヨリ ~~~~~ =ヨレバ ~~~~~
 オル U オレバ U イル U イレバ U =ナリマスレバ ~~~~~
 ガアリマスレバ Y ナレバ C 申上げレバ U テシマエバ ↶

41. **略字の活用**

オラレル G イラレル A オラレル G オレバ U イレバ U オラレマス G オラレテ G
 イラレタ R ナラレル H **考エ** 考エマス M 考エテ W
 考エテオリマス T 考エテイル W 考エテイタ W 考エテイルノデアリマス T 考エタ
 考エルヨウナ W 考エテイルヨウナ W 考エテレテ W 考エテレテイル W
 考エレバ W 考エレバ考エルホド W 考エレバ考エルダケ W
 考エル W 考エルノデアリマス M 考エテレルノデアリマス T 考エテレマス T
 考エネバナラヌ W 考エネバナラナイ W
 考エネバナリマセン W **思ウ** 思ウト思ウ W
 思イ W 思イマス W 思イマセン W 思イマシテ W 思イノデアリマス T
 思ワヌ W 思ワナイ W 思エバ W 思ワレバ W 思ワレル W
 思ワレタ W 思ワレテ W 思ッテ W 思ッテイル W
 思ワレテイル W 思ッテオル W 思ッテイタ W

思ッテ 思ッテ 思ッテ 思ッテ 思ッテ 思ッテ
 オッタ アリマス マス デアリマス
 思ッヨウナ 思ッモリデ 思ッテ ...ダト
 アリマス ゴザイマス 思ッマス
トイウ トイウ トイウデ トイッ トイッ トイ
 アリマス ヨウナ ヨウナ
 トイバ トイバ トイ トイ トイ トイ
 イホド マス マス
 トイワレル トイッテ トイッテ トイッテ トイッテ
 デアリマス イル イタ オル
デキ デキル デキマス デキナイ デキル デキタ
 デキヌ デキナクナッテ **ゴザイ**
 シマッタ マス マシテ
テシマイ 見テシマイ 見テ ミテ ミテ
 シマウ シマウ シマウ シマウ
 デシマウ デシマウ デシマウ デシマウ
 デシマウ デシマウ ヤンデ 朝 ナツ
 シマッタ シマウ シマイ シマイ
 ミエナクナッテ **ナク** ミエナク 来 ナク
 シマッタ
 ミエナクテハ ミエナクテハ ナラナイ
 ナラナイ
 トラナクテハ
 ナラマセン ナラヌ
 ミエナク
 ナラナイ ナッテ ナリマス
申ッ上げ 申ッ上げ 申ッ 申ッ上げ 申ッ
 マス エゲタ タイ 上げテ
 申ッ上げル **ナイ** ナイト ナイト
 マデモナク ナリデ ナイト イッ
 ナイト ナイト 思ッ ナカッタ ナカッタ
 ヨウナ 思ッ ナイ ナカッタ ナカッタ
 ナカッタ ナカレバ ナカレバ ナカレバ
 トイウ ナラヌ ナラヌ トイウ ナラナイ

ナケレバ ナリマセン ナケレバ ナルマイ ナケレバ ナリマスマイ ナケレバ ナラヌト 思イマス

ナイヨウナ ナイデル ナケレバ ナラナクナリマス

ダケ・トコロ・バカリ ミタダケデ ミタコロハ ミタバカリデ

ミタダケデ **モノ** モノデアリマス モノデハアリマセン モノデハナイ

モノガアリマス モノデアルトイ 思ウモノデアリマス **ヨウニ** ヨウニナツテ

ヨウニナリマス ヨウニナラナイ ヨウニハナラナイ

レバ ミレバ ミレバ **ノ中ニ** 山ノ中ニ

山ノ上ニ 山ノ下ニ **人** 人 コノ人々

✓ **ジャナイカ** 朝ジャナイカ ジャナカウ ノミヤナイカ

ノミヤアリマセンカ **その他** 必ずヤ コトニ **コトニ**

皆サマガタ シカシナカ"ラ 来ル"ダ ソコ

42. **記号**

速記の書き初めには ① を、速記の終りには ③ の印をつけておくと速記の初めと終りとは明瞭になってよいから、練習のとき、これを実行するようにおすすめする。

日本文では句点として小丸。を用いるが、速記では X を用いる。カッコは を使う。

43. 文例

①

反訳文。①は速記の書き初めのしるし。

春になったのであります。花が咲いているのであります。公園に行こうじゃないかと、父も言うのであります。それなら、私が自動車運転するからという、みんなは電車で行こうというのであります。技術革新の波がおしよせております。きのうまで完全だと思っていた技能もきょうはすでに時代遅れとなってしまふというような、はげしい時代なのであります。戦後、社会がまだ混乱しておる時に新憲法は公布されたのであります。実に昭和21年11月3日のことのであります。これによって、今まで夢想さえもしなかつたところの男女平等が実現されたのであります。私はこのことについて ③

① 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000

ここには大きな池がある。あそこに見えるのは浅間山である。こんなよい天気はないと思った。テレビはトランジスターなどの開発によって小型のものができてきた。センターとは中心という意味である。陽のある所に山小屋に着かねばならない。速記を習う人はたくさんある、しかし終りまで勉強する人は多くはない。南極にはペンギンがいる。北極にはなにがおりますか。おとまにも、おむちは必要なのでありましょうか。女人とは女の人のことである。ピアノの音は美しいのである。どうしたことか電話が通じない。何の故障なのでしょう。アポロ11号は月に到達した。秋がくると赤くなるという。古い米になっていた。(了り)

①

Handwritten musical notation on a staff. It begins with a treble clef and a key signature of one flat (B-flat). The notation includes various note values (quarter, eighth, and sixteenth notes), rests, and dynamic markings. The piece concludes with a double bar line and a circled number 3, indicating the end of the exercise.

私のおじいさんは、ことし88才になります。おばあさんは82才になりました。おとうさんは53才です。おかあさんはよく働いております。おじさんのうちは農家であります。おばさんは料理が上手だということであります。私の弟は夏は水泳をしますが冬になるとスキーに夢中になります。私は音楽が大好きでありますが、スポーツもやってみたいと思っております。しかし高校なので大学入試の準備のために遊ぶひまがないのが残念です。毎晩遅くまで勉強していると、病気になるからといって、みんなが心配しています。私は小さな字引を買った。フランス語を習いたい。リンゴの色は赤い。了。

泉式の解説書は1940年以來、数回刊行されております。本書は泉会全音速記塾の教科書として、泉式の要点を記述したものであります。

著者紹介

- 1897 東京で生れた。
- 1917 東京の京華中学校卒業
- 1922 東京大学文学部教育学科選科修了。
社会教育・図書館学を専攻。
- 1932-1949 県立長野図書館長。
- 1940 泉式全音速記を発表。
- 1949 泉会(泉式速記研究会)を創る。
青年団・図書館・速記に関する著書多し。

泉式全音速記

1969.10.28 発行

著者 乙部泉三郎

おとべせんざぶろう

発行所 泉 会

長野市北石堂町269

振替 長野17715

全音速記 基本文字一覽表

ア	オ	イ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ	
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	
サ	シ	ス	セ	ソ	
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ	
タ	チ	ツ	テ	ト	
ダ			デ	ド	
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	
パ	ピ	プ	ペ	ポ	
バ	ビ	ブ	ベ	ボ	
マ	ミ	ム	メ	モ	
ヤ		ユ		ヨ	
ラ	リ	ル	レ	ロ	
ワ					

アイ	の	オ	イ	レ
カイ		コ	イ	
ガイ		ゴ	イ	
サイ		ソ	イ	
ザイ		ゾ	イ	
タイ	〇	ト	イ	✓
ダイ	・	ド	イ	
ナイ		ノ	イ	
ハイ		ホ	イ	
バイ		ボ	イ	
バイ		ボ	イ	
マイ		モ	イ	
		ヨ	イ	
ライ		ロ	イ	

キヤ キク キキ キユ キウ キョ キク キョ キョ
ギヤ ギク ギキ ギユ ギウ ギョ ギク ギョ
シヤ シク シキ シユ シウ ショ シク ショ
ジヤ ジク ジキ ジユ ジウ ジョ ジク ジョ
チヤ チク チキ チユ チウ チョ チク チョ
ニヤ ニク ニキ ニユ ニウ ニョ ニク ニョ
ヒヤ ヒク ヒキ ヒユ ヒウ ヒョ ヒク ヒョ
フヤ フク フキ フユ フウ フョ フク フョ
フヤ フク フキ フユ フウ フョ フク フョ
フヤ フク フキ フユ フウ フョ フク フョ
リヤ リク リキ リユ リウ リョ リク リョ

イ エ エ エ
コイ ケイ ケイ ケイ ケイ ケイ
ゴイ ゲイ ゲイ ゲイ ゲイ ゲイ
ソイ セイ セイ セイ セイ セイ
ゾイ ゼイ ゼイ ゼイ ゼイ ゼイ
チイ ツイ ツイ ツイ ツイ ツイ
チイ ツイ ツイ ツイ ツイ
チイ
ニイ (助詞) ニイ ニイ ニイ ニイ
フイ ハフ フフ フフ フフ フフ
フイ ハフ フフ フフ フフ フフ
フイ ハフ フフ フフ フフ フフ
フイ (助詞) フイ フイ フイ フイ
ユイ
リイ リイ リイ リイ リイ